

第4期「日野人げんき！」プラン

令和5年度進捗状況評価報告



日野市 健康福祉部 健康課

第4期「日野人げんき！」プランについて

設定期間:令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度)までの5年間

≪目的≫健康寿命延伸のための取組の推進

〔取組の方向〕ヘルスケア・ウェルネス戦略

上記を掲げ大目標1～3を設定

大目標の下に中目標を設定し、中目標に対する進行管理を行います。

令和5年度評価の方法について

・評価体制:『主管課評価』 → 『評価推進委員会』の2段階で実施。

『主管課評価』 取組を担当している課が評価

『評価推進委員会』

→ 「日野人げんき！」プラン 評価実施要綱に基づいた構成メンバー

- (1) 公募による市民代表3名
- (2) 医師会推薦1名、歯科医会推薦1名、薬剤師会推薦1名
- (3) 日野市職員3人…健康福祉部参事、子ども部長、教育部長

・評価の基準:下記3段階で設定

- : 現状値より増えた
- △ : 現状維持
- × : 現状値より減った

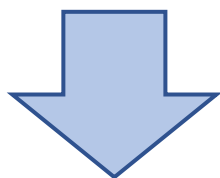
令和5年度評価内容

主管課評価

・主管課が本プランで設定した数値目標(健康指標)を含め中目標の達成状況についての評価を行いました。

・主管課での評価結果は10の中目標に対し「現状値より増えた:○」…4、「現状維持:△」…6、「現状値より減った:×」…0

※新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、新たな手法を取り入れる等、工夫を凝らし、事業を実施していくことはできたが、内容・結果については更なる改善などが求められる。



評価推進委員会

・対面での評価推進会議を開催。各委員からの意見をまとめ評価結果としました。

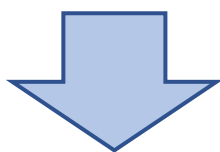
・上記「主管課評価」をふまえ、中目標の達成状況についての評価を行いました。

・「評価推進委員会」の審議結果報告を受け、令和5年度の評価結果として市民へ公表していきます。

・評価推進委員会での評価結果は10の中目標に対し、「現状値より増えた:○」…4、「現状維持:△」…6、「現状値より減った:×」…0

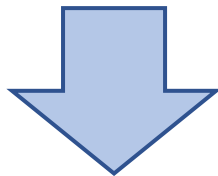
新たな取組の工夫や新たな手法を用いた事業展開についてなど、評価いただけた部分もありました。

・「評価推進委員会」の各中目標の結果は次ページ『第4期「日野人げんき！」プラン令和5年度評価概要(評価推進委員会)』を参照してください。



裏ページへ

つづき



評価推進委員会評価結果を受けて

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され通常の事業を実施出来るようになったことに伴い、新たに事業の周知方法の見直しや、事業内容の工夫を行うことが必要であるとのご指摘をいただきました。

具体的には、受診率を上げるには受診勧奨が効果的な手法ではあるが、その他にも健診内容の見直しなど効果的な方法は研究して欲しい等のご意見がありました。

今後については、見えてきた課題を分析、他自治体や他団体の取組を研究し、地域と協力しながら効果的な周知啓発活動を継続していく必要があります。

- ・「評価推進委員会」の評価結果をもって各事業にフィードバックしていきます。
本評価を含め課題を検討し、今後の取組や改善につなげていきます。

第4期「日野人げんき！」プラン令和5年度評価概要(評価推進委員会)

・評価の基準:3段階で設定 ○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った

大目標	中目標		中目標の 令和5年度評価	令和5年度評価コメント
1、健康づくり を推進します	1	日頃から感染症の発生及び蔓延を予防 していく体制を推進します	○	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、厚労省の感染状況把握のタイムサイクルが長くなる等、沈静化傾向の中である程度の実施が継続でき、情報発信されたことは評価できる。 日常生活が平常時に戻り様々な感染症は継続して発生しているため、常に正しい情報を更新・発信していく必要がある。また、最新情報を簡単に見ることができなど情報発信の仕方を工夫する必要がある。 ・パンデミック発生時の迅速な対応を行うために過去の対応記録と今後の行動計画については準備をしておく必要があると考えられる。
	2	生活習慣病予防を推進します	△	・健康教育の回数は増加し、実施内容についても評価できる。 ・実際にどれだけの市民が参加し、それが一人一人の生活に何らかの変化を生み出したかが重要と思う。年代別に行うべき内容は異なるので、それも含めた実施状況と目標設定及び達成のためのアプローチを考える必要がある。 ・今後も地域に出向いた健康教育については、さまざまな年代が集まる場など積極的に出向いて行ってほしい。 ・予防に携わる各課が情報共有し、様々な年代に対して多角的に健康教育に取り組む必要があると感じる。 ・LINE の導入は若い世代の受診率向上に有効と思われるため勧奨方法の効果を検証し、受診率の高い自治体の取組なども参考にさせていただきたい。
	3	高齢社会を地域で支えるための「健康づ くり」を推進します	△	・健康体操サポーターの増加、自主グループの育成については大変評価できる。 ・卒業生からサポーターに上手に勧誘し運動期間を継続していただく方法と卒業後フォローの必要な方々を各自主グループに誘って欲しい。 ・運動のきっかけづくりは重要。継続にあたって民間事業者との連携なども検討し、市民が自主的に運動をするような取組を今後もさらに拡大していくとともにしっかりとフォローしてほしい。 ・地域協働課等との連携を図り、自治会等の地域組織の活用により、より多くの市民がそれぞれの年齢・体力・健康状態に応じた体操などに参加するよう、誘導していく必要があるのではないか。 また、さわやか体操は3年卒業制度が実施されているが、現実には、引っ張ってくれる人がいるから参加するという方が多いのではないか。 新規の申込も定員をオーバーしている状況であり、フレイル予防(＝結果として医療費・介護保険の節約につながる)により積極的に取り組むことを期待する。
2、がん対策を 推進します	1	がんの予防を推進します	○	・がん教育の実施回数増加は大いに評価できる。 ・小中学校へのがん教育の取組は大変有効であると考えられるので、継続して活動していくことが望ましい。 ・禁煙については、これは生活週間というよりは中毒＝病気という意識で啓蒙する必要があると思う。喫煙は、煙草に触れることが無ければそれが入り込むことはない。少しでも煙草に若い人たちが触れる機会を減らすように、公共施設及びその周辺という点ではなく、駅前周辺とか通学路一体等、より広いエリアでの路上喫煙禁止なども検討する必要があるのではないか。 ・日野人げんきゼミナールともあわせて、積極的に地域や団体に出向く活動を拡大し、また、情報発信についても積極的に取り組んでいく必要がある。
	2	がんの早期発見を推進します	△	・受診勧奨を2世代から15世代に拡大し、乳がん検診・子宮がん検診の受診率が向上したことは評価できる。 ・乳がんは早期発見が非常に重要。がん予防教育と平行して、若い時から自身でも注意を払い、しこり等が無いか、普段の生活の中での注意喚起も必要である。 ・大腸がん検診の精密検査の受診率向上のため他団体の取組など参考にし、新たな対策を検討する必要がある。 ・目標値に届くように検診内容の見直しなど、効果的な方法を研究する必要がある。
	3	がんとの共生を図ります	○	・新規事業がはじまったことは評価する。 ・様々な取組が進められているようであり、がんを抱えている方々が一人孤立してしまわないように、今後もより参加しやすい形で関係機関や団体連携を図って取り進めて頂きたい。 ・がんを患っている方だけでなく、周囲の方々の接し方・受け止め方が重要なポイントでもある。 多くのがんが不治の病ではなくなってきており、自分がんになったことを口に出しやすい社会・環境作りが大切だと感じる。
3、歯とお口の 健康づくりを 推進します	1	【妊娠期】妊娠期からかかりつけ歯科医 を持ち、母子共に健康なお口を育てられ よう推進します	△	・対象が同じ人でなく、多少の誤差は出るのは仕方ない。 歯科医会で健診受診者にいかに教育できるかが大事と考える。 ・歯の健康診断(＝歯の健康状態を診る)を定期的に行う習慣づけを子どもの頃から定着する必要があるのではないか。 ・若い世代へのかかりつけ歯科医の普及はなかなか難しいことと思うので、半数がかかりつけ医を持っていることだけでも、今までの歯科の活動の成果が出ていると思う。 ・課題を達するために必要な具体的方法を検討し、歯科医と協力して推進していただきたい。
	2	【乳幼児期】むし歯のない健康なお口を 持つ子どもの育成に取り組めます	△	・リーフレットを新しくしたことの努力は評価できる。 ・妊婦歯科健診から継続し、乳幼児のむし歯は親の責任であることを、健診時に親に対し、いかに子どもへの責任の重要性を提示し、歯科予防に関する知識の構築が必要である。 ・スウェーデン式歯磨きという「夕食後、家族全員で揃って洗面所で歯磨きをする。フッ素入りの歯磨き粉で歯を磨き、そのままうがいをしない。」と というようなやり方など家庭で取り入れられる情報発信も有効ではないか。
	3	【学齢期・成人期】子どもの歯肉炎予防・ 成人の歯周病予防に努めます	△	・小学校、中学校での歯科教育は、養護教諭及び学校歯科医がいかに熱心にできるか、むし歯のできてしまった子にいかに早く歯科医受診に繋げることができるかであると考え。お 口の健康診査で、対象者が、すでに定期的に歯科にかかっていると「受ける必要無し」と勝手に判断している傾向があると思われ、そこが受診率の伸びを妨げているのではないか。 ・教育・指導による意識の変化も重要であるが、それ以外のアプローチを考える必要があると思う。学校と学校歯科医で連携して取り組んでほしい。 ・お口の健康診査の受診率が低下している。コロナが終わり、受診率としては上がりそうだが、上がらなかった要因は検証してほしい。
	4	【高齢期】口腔機能の維持向上を推進し ます	○	・後期高齢者健診に新しい口腔機能健診を取り入れ、大幅に受診率が向上したことは評価する。 また、80歳以上の方の口腔機能検査はどうするのか検討が必要である。 ・虫歯・入歯の治療だけでなく、口腔の健康状態の相談窓口となる何かが必要ではないか。 ・口腔機能の診断と改善指導が60歳代から受けやすくすると、誤嚥や咀嚼不全等、色々の不健康状態を招く要因を早期に発見・対策でき、市民の健康寿命の長寿化に繋がるのでは ないかと思う。 ・高齢者だけでなく、かかりつけ歯科医の重要性を発信し続ける事が大切である。

< 評価詳細 >

大目標
1

健康づくりを推進します

・評価の基準:○ 現状値より増えた △ 現状維持 × 現状値より減った

								主管課評価				評価推進委員会		
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和4年度実績値	最終目標値	令和5年度実施計画【最終目標値達成のために実施する事業(業務内容)】	令和5年度実績	実施内容【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
1	日頃から感染症の発生及び蔓延を予防していく体制を推進します	健康課	感染症情報のホームページ更新回数	0回	368件 (予防接種に関すること10件、新型コロナウイルス感染症に関する情報発信100件、日報・月報258件)	増やす	・国や都からの情報発信に合わせ、感染症に関する最新情報をタイムリーに情報更新を行う。 ・新型コロナウイルス感染症が5類移行となるが、継続して適切な感染予防行動がとれるよう正しい知識の周知を図る。 ・情報によっては、ホームページの更新に合わせLINEの配信を行い、市民への知識の普及や感染予防行動がとれるよう働きかける。	58件 (予防接種に関すること22件、新型コロナウイルス感染症に関する情報発信20件、流行している疾患情報16件)	・新型コロナウイルス感染症の5類変更に伴い、古い情報が残らないようホームページの情報整理を行った。また今年度は新型コロナウイルス感染症以外の感染症の流行が多く発生したため、注意喚起・予防を目的に適宜発信を行った。 ・予防接種に関しても、適宜情報の更新を図り、適切な周知を行った。特に今年度は带状疱疹ワクチンの一部助成の開始に合わせ、ワクチンの種類や効果等知識の提供を行い、適切な知識のもと予防接種が検討できるよう周知を行った。	令和4年度より更新回数は減少した。新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、情報更新の減少や、日報・月報の更新がなくなったことが影響していると考えられる。ただ今年度は新型コロナウイルス感染症だけではなく、それ以外の感染症に関しても流行に合わせて注意喚起や正しい知識の周知を図るよう呼び掛けることができた。今後も感染症等の流行に合わせ、適宜更新・周知を図り、感染予防行動がとれるよう働きかけを行う必要がある。	○	【評価】 新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより情報の更新が少なくなったが、新型コロナウイルス感染症以外の感染症の最新情報をタイムリーに情報更新が出来たことは評価できるものと考ええる。 【課題】 今後も感染症・予防接種に関する情報を迅速に情報発信していくことに努め、感染予防行動をとれるよう、LINEなどの様々なツールを活用して、多角的な情報発信に努める。	○	・感染症の最新情報を簡単に見ることが出来るようにお願いしたい。 ・5類になったとは感染が無くなった訳ではなく、引き続き情報の発信は必要。 ・新型コロナが5類に移行してから、日常生活が平常時に戻り、意識が薄れつつある。しかし、感染症は無くなったわけではないので、正しい情報発信を続ける事が大切である。また、パンデミックを経験したことを忘れずに発生時にはすぐに対応できるように記録と行動計画を準備しておく。 ・分かりやすく、アクセシブルな情報提供をお願いしたい。 ・新型コロナ5類移行も、コロナ情報や他の感染症について情報発信がされており、コロナ前と比較して情報発信がされていることは評価する。 ・新型コロナが5類に移行し、厚労省の感染状況把握のタイムサイクルが長くなる等、沈黙化傾向の中である程度の実施が継続できたことは評価できる。 ・新型コロナ以外にも様々な感染症の拡大がニュースで取り上げられる中、より市民の目に触れる・市民への啓蒙となるような情報発信の仕方を工夫する必要があるのではないか。
2	生活習慣病予防を推進します	健康課	健康教育事業実施回数	19回	15回	増やす	・日野人げんきゼミナール(地域での健康教育)を実施していく。 ・健診(検診)会場での健康教育を実施していく。	19回	日野人げんきゼミナールを実施した。乳がん検診、骨粗しょう症検査において健康教育を実施した。	昨年度より実施回数が増加、現状値と同回数の実施となった。今後も周知しながら有効的な健康教育を実施していく。	△	【評価】 地域での健康教育について前年度より多く実施することができたことは評価できると考える。 【課題】 健診案内等の見直し、より受診率向上に向け引き続き若い世代に有効な受診勧奨方法を検討する必要がある。	△	・「健診受診率」の実績値を見ると減少しているが実施内容は十分に評価できると考える。 ・LINEの導入は若い世代の受診率向上に有効と思われる。 ・携わる各課が情報共有して取り組んでいただきたい。 ・特に若い世代の勧奨方法の効果を検証し、受診率の高い自治体の取組なども参考にしてほしいと思う。 ・新型コロナ5類移行後、地域へ出向くことが多くなったことは評価する。地域に出向いた健康教育については、さまざまな年代が集まる場など積極的に出向いて行ってほしい。 ・実施状況はほぼ横ばいであり、積極的評価をする状況にはないと思われる。 ・健康教育については、実施回数も評価対象ではあるが、実際にどれだけの市民が参加し、それが一人一人の生活に何らかの変化を生み出したかが重要と思う。年代別に行うべき内容は異なるので、それも含めた実施状況と目標設定及び達成のためのアプローチを考える必要がある。
			特定健診受診率	46.3%	44.7%	増やす	電話による受診勧奨対象者を増やし、受診勧奨を行う。また、若い世代(40～64歳)の受診率向上のために、LINEによる受診勧奨も検討し実施する。	43.7%	特定健診未受診者8,094名に対し、受診勧奨ハガキを送付した。	受診率は減少しているが、LINEでの受診勧奨といったアプローチを実践することができた。今後は、健診案内等も見直しながら、健診の必要性の周知方法等を引き続き工夫していく。				
3	高齢社会を地域で支えるための「健康づくり」を推進します	健康課	健康体操サポーター新規登録数	3名	2名	増やす	・新規サポーターの募集を広報で実施するだけでなく、楽・楽トレーニング体操の参加者に対して、サポーター募集の声掛けを行う。 ・隔年実施(2年に1回)の新規サポーター募集を毎年実施へ変更し、申込機会を増やす。	5名	サポーター増員をするため、令和5年度より隔年募集ではなく、毎年募集へ変更。ホームページや広報だけでなく、各々の楽・楽トレーニング会場での告知および、参加者(サポーターからみて意欲がありそうな参加者)へ声掛けをした。またサポーター自身へも知り合いの方など意欲がありそうな方へお声かけ頂くよう依頼した。	令和5年度では5名の申し込みがあり、目標達成となった。また令和5年度に養成講座を実施した2名が試験に合格され、令和6年度に本登録を行い、活動予定である。しかし今後、サポーターの高齢化により、活動を辞退される方が増加することが見込まれる。活動が維持できるよう、サポーター増加に向け、引き続き働きかけていくことが必要である。またサポーターの数だけではなく、養成講座の見直しも図り、一定の質も維持できるよう支援していく必要がある。	△	【評価】 サポーターの5名の応募と2名の新規登録があったことやさわやか健康体操3年卒業制度を導入し、その後自主グループでの活動へ移行できたことについて評価できると考える。 【課題】 活動を支えるサポーターの高齢化による事業内容の見直しを行う必要がある。また、さわやか健康体操については卒業制度導入により見捨てられ感がないよう卒業後のフォローを行うとともに市民自身が自分に合ったフレイル予防の必要性に気付くように周知を図る。	△	・卒業制は評価するが「運動継続期間が5年以上の方」と指標が定められているのに、3年での卒業は齟齬や不満はないか。私自身がさわやか健康体操の対象者だとしたら、おそらくそれ以外の運動をしないと思うので5年以上はありえないと思う。また卒業生からサポーターに上手に勧誘し運動期間を継続していただく方法と卒業後フォローの必要な方々を各自主グループに誘って欲しい。 ・活動の場が広がり継続して利用できるようにしっかりとフォローをお願いしたい。 ・高齢者の概念が変化している。元気な方も増えている。 ・運動のきっかけづくりは重要だと思う。継続にあたって民間事業者との連携なども検討できればと思う。 ・健康体操サポーターの増加や自主グループの育成については大変評価する。市民が自主的に運動をするような取組は、今後もさらに拡大してほしい。 ・サポーターへ5名の応募・2名の登録が出来たことは喜ばしいことである。 ・一方で、より多くの市民が体操などの運動の活動に参加しやすくするためには、どの程度の人員が必要なのか。 ・地域協働課等との連携を図り、自治会等の地域組織の活用により、より多くの市民がそれぞれの年齢・体力・健康状態に応じた体操などに参加するよう、誘導していく必要があるのではないか。また、さわやか体操は3年卒業制度が実施されているが、現実には、引っ張ってくれる人がいるから参加するという方が多いのではないかと。 ・新規の申込も定員をオーバーしている状況であり、フレイル予防(＝結果として医療費・介護保険の節約につながる)のため積極的に取り組むことを期待する。
			運動継続期間が5年以上の方	64.4%	52%	増やす	・市民のフレイル予防のため、市民自身が運動の必要性を知ることができる機会を提供する。 ・市民が健康づくりを自発的に行えるような仕組みを企画する。	52.5%	さわやか健康体操では3年卒業制を導入。卒業生にむけて健康づくりを自主的に行えるように運動ガイドを作成し市内にある運動施設等の紹介をしたり、自主グループ化への情報提供等を行った。	一部のさわやか健康体操卒業生が運動継続のため自主グループを作り活動開始。引き続き運動ができる施設・機会の情報提供を行い、自発的に運動、健康づくりができるような仕組みづくりを行っていく。				

大目標
2

がん対策を推進します

・評価の基準:○ 現状値より増えた △ 現状維持 × 現状値より減った

								主管課評価					評価推進委員会	
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和4年度実績値	最終目標値	令和5年度実施計画【最終目標値達成のために実施する事業(業務内容)】	令和5年度実績	実施内容【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
1	がんの予防を推進します	健康課	子育て世代へのがん予防教育実施回数	2回	4回	増やす	・地域の子育て広場や小中学校でのがん予防教育を実施する。 ・広報だけでなく、ホームページ等でがんに関する正しい知識を発信する。	8回	・地域の広場や小中学校に出向き、がん予防教育を実施した。 ・広報以外にも、ホームページやLINE にて、がんに関する正しい知識を発信した。	・引き続き、地域へ出向き子育て世代へのがん教育を行う。 ・引き続きSNSを活用し、年代に合わせた情報発信を行う。	○	【評価】 ・地域へ出向いてがん教育や禁煙教育を前年度の倍以上実施したことは大いに評価できる。また子育て世代に向け、SNSを活用した情報発信を行った点についても評価できると考える。 【課題】 引き続き、情報発信の手法と、禁煙について考えるきっかけ作りをいかに効果的に行うことができるかを検討していく必要がある。	○	・努力を感じる。評価大 ・教育実施回数の増加は評価に値する。 ・偏ったり間違った情報にまどわされないように広報での情報発信は重要。 ・子どもたちへの啓発は有効と考えられるので、引き続き重点的な取組をお願いしたい。 ・小中学校へのがん教育の実施は、大変すばらしいと思う。日野人げんきゼミナールともあわせて、積極的に地域や団体に出向く活動を拡大してほしい。 ・がん予防教育は、活動が活発にできて良かった。是非、今後も継続して実施して頂きたい。 ・禁煙については、これは生活習慣というよりは中毒＝病気という意識で啓蒙する必要があると思う。喫煙は、煙草に触れることが無ければそれが入り込むことはない。 ・少しでも煙草に若い人たちが触れる機会を減らすように、公共施設及びその周辺という点ではなく、駅前周辺とか通学路一体等、より広いエリアでの路上喫煙禁止なども検討する必要があるのではないか。
			禁煙教育実施回数	4回	5回	増やす	・がん検診や特定健診、商工会での健康教育等肺がん検診実施時、禁煙に関心をもってもらうようきっかけ作りを行う。 ・広報やホームページ等で禁煙に関する情報を発信する。 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業にて禁煙希望者には禁煙指導を行っていく。	12回	・がん検診や特定健診、商工会での健康教育時に加え、がん予防教育においても禁煙についての情報発信、健康教育を行った。 ・広報、ホームページで禁煙に関する周知啓発を行った。	・引き続き、各検診等で禁煙についての情報発信、健康教育を行う。 ・禁煙について考えるきっかけ作りを検討していく。				
2	がんの早期発見を推進します	健康課	乳がん検診受診率	20.2%	14.7%	増やす	・受診率向上に向けて、15世代に受診勧奨を送付する。 ・受診率向上に向けて、引き続き広報やLINE等で情報発信を行う。	22.1%	・受診勧奨の送付対象者を検討し、2世代のみに送付していたものを令和5年度より15世代に送付することにした。 ・広報は2回掲載、LINEは3回掲載し、受診率向上につながるよう実施した。	受診率が前年度より約8%増加した。今後も、引き続き受診勧奨を工夫していく。	△	【評価】 勧奨通知を2世代から15世代に拡大したことにより、受診率が8%増加したことは大いに評価できると考える。 【課題】 大腸がん検診の精密検査の受診率が向上しない理由について更なる分析が必要と考える。がんの早期発見のために、他自治体の状況を調査・研究しながらより効果的な手法を検討し、精密検査の必要性について情報発信を行うことが必要である。	△	・工夫した点が見られ、評価できる。課題点は今後に期待する。 ・乳がん検診、子宮がん検診の受診率向上は評価できるが、大腸がん検診の精密検査受診率向上のために新たな対策を検討する必要がある。 ・目標値に届かないので、工夫して努力して欲しい。 ・大腸がん精密検査の受診率向上のため他団体の取組なども参考にしていたきたい。 ・受診率を上げるには、受診勧奨が効果的な手法であるが、その他にも検診内容などの見直しなど、効果的な方法は研究してほしい。 ・乳がん検診・子宮頸がん検診は受診率が上がったことは評価できる。一方で、大腸がん検診精密検査受診率が伸びていない。 ・乳がんは早期発見が非常に重要。がん予防教育と平行して、若い時から自身でも注意を払い、しこり等が無いが、普段の生活の中での注意喚起も必要であろう。 ・大腸がんの再検査については、以前NHKでも取り上げられており、その時のデータでは成人男子の受診率が低かったと記憶している。 ・潜血と出血を同じと考え、再検査の診断結果を、痔の所為などにすり替える人が多いようである。健康診断の受診率も考えると、対策が必要であろう。
			子宮頸がん検診受診率	13.5%	11.8%	増やす	・受診率向上に向けて、15世代に受診勧奨を送付する。 ・受診率向上に向けて、引き続き広報やLINE等で情報発信を行う。 ・地域の場での健康教育で子宮頸がんについての周知啓発を行う。 ・HPVワクチン勧奨の際に子宮頸がん検診についての勧奨も同封する。	18.3%	・受診勧奨の送付対象者を検討し、2世代のみに送付していたものを令和5年度より15世代に送付することにした。 ・50歳に受診勧奨を送付した。 ・広報は2回掲載、LINEは3回掲載し、受診率向上につながるよう実施した。 ・地域の場に2回出向き、子宮頸がんについて周知啓発を行った。	受診率が前年度より6.5%増加した。地域の場のみならず、今後もあらゆる方法で周知ができるよう工夫していきたい。				
			大腸がん検診精密検査受診率	63%	50.6%	増やす	・精密検査未受診者に対し、受診の必要性を周知していく。 ・精密検査受診率の傾向を把握し、関係機関と課題を共有する機会をもつ。	54.1%	・精密検査未受診者に手紙、電話で状況確認及び受診勧奨を行った。 ・ホームページ等でがん検診の周知啓発を行った。 ・精密検査受診率の日野市の現状の分析を開始した。	・引き続き精密検査未受診者へ個別の手紙、電話で受診状況の確認、受診勧奨を行う。 ・受診率向上にむけて、精密検査の必要性をホームページ等で発信していく。 ・引き続き、精密検査受診率の日野市の現状を分析し、医師会等と課題を共有し、対応を考える。				
3	がんとの共生を図ります	健康課	がんに関する相談・支援団体との連携	1団体	3団体	増やす	・市立病院 がんカフェでの保健師の派遣 ・まちの在宅医療相談会の実施 ・がん患者への支援の実施(アピアランスケア支援補助金事業)	1団体 5回 82件	・市立病院 がんカフェでの保健師の派遣 ・まちの在宅医療相談会の実施 ・がんカフェと主催公演会内にて、「日野市がん検診」をテーマに講座を実施 ・がん患者への支援について(アピアランスケア補助事業の実施)	引き続き、他部門と連携をはかり、がんの支援の拡がりを作っていくことで、がん患者、家族以外にもがんに対しての理解者を増やし、がんとの共生を図れるような環境を作っていく。	○	【評価】 様々な事業実施に加え、がん患者への支援としてアピアランスケア補助事業を実施したことは評価できる。 【課題】 補助事業や相談事業などの更なる周知啓発に努め、より一層がんとの共生が図れるような環境を整えていく必要がある。	○	・様々な支援に力を入れて活動されていると思う。引き続きお願いしたい。 ・「指標」に対する目標に対する実施事業は評価できる。 ・引き続き、患者と家族のため活動してほしい。 ・アピアランスケア補助事業の開始は評価できる。新しい取組にあたり既存事業の見直しの検討も必要と考える。 ・新規事業がはじまったことは評価する。関係機関や団体との連携がないとできない目標なので、今後も連携を図ってほしい。 ・様々な取組が進められているようであり、がんを抱えている方々が一人孤立してしまわないように、今後もより参加しやすい形で取り進めて頂きたい。 ・がんを患っている方だけでなく、周囲の方々の接し方・受け止め方が重要なポイントでもある。 ・多くのがんが不治の病ではなくってきており、自分ががんになったことを口に出しやすい社会・環境作りが大切だと感じる。

大目標
3

歯とお口の健康づくりを推進します

・評価の基準:○ 現状値より増えた △ 現状維持 × 現状値より減った

								主管課評価				評価推進委員会		
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和4年度実績値	最終目標値	令和5年度実施計画【最終目標値達成のために実施する事業(業務内容)】	令和5年度実績	実施内容【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
1	【妊娠期】 妊娠期からかかりつけ歯科医を持ち、母子共に健康なお口を育てられるよう推進します	健康課	かかりつけ歯科医を決めていない人	62%	54.4%	減らす	・ママババクラスや母子手帳交付窓口での周知啓発を継続実施する。 ・より多くの妊婦に周知啓発するため、ホームページだけではなく、ぽけっとなどび等を活用した周知啓発を行う。	59.7%	・妊婦歯科健診の受診者に配布しているリーフレットの内容の見直しを行った。 ・ママババクラスや母子手帳交付窓口での周知啓発を継続実施した。	・妊婦歯科健診の受診結果で「かかりつけ歯科医を決めていない人」が増加した。 ・引き続き既存事業やホームページでの周知啓発を行い、ぽけっとなどび等を活用した妊婦への情報発信方法等を検討する。	△	【評価】 かかりつけ歯科医を決めていない人が増加してしまっただが、現状維持の範囲内と考える。 【課題】 数値改善を推進するため、妊娠期の口腔ケアの重要性を広く周知していくことが必要である。	△	・引き続き活動をお願いしたい。 ・対象が同じ人でなく、多少の誤差は出るのは仕方ない。歯科医会で健診受診者にいかに教育できるかが大事と考える。 ・せめて50%を切るように歯科医と協力して推進してほしい。 ・課題を達するために必要な具体的方法を検討し、実施していただきたい。 ・現状値より減っている。 ・若い世代へのかかりつけ歯科医の普及はなかなか難しいことと思うので、半数がかかりつけ医を持っていることだけでも、今までの歯科の活動の成果が出ていると思う。 ・虫歯が無く歯科医に行ったことが無い方が多いのか、かかりつけの歯科医を持っていない方が約60%というのは驚きの数値。 ・歯科医は、歯が痛くなったら行くところという意識が強いのではないか。歯の健康診断(=歯の健康状態を診る)を定期的に行う習慣づけを子どもの頃から定着する必要があるのではないか。
2	【乳幼児期】 むし歯のない健康なお口を持つ子どもの育成に取り組めます	健康課	1歳6か月児健康診査で、保護者が毎日仕上げ磨きをしている子ども	96.5%	96.3%	増やす	・離乳食教室や3・4か月児健診にて、仕上げ磨きの重要性や方法について周知するためのリーフレットの配布を行う。 ・健診時、仕上げ磨きを行っていない保護者に対しては引き続き歯科専門職による支援を行う。	95.9%	・離乳食教室や3・4か月児健診にて、仕上げ磨きの重要性や方法について周知するためのリーフレットの配布を行った。 ・子育て広場で健康教育を実施し、仕上げ磨きの方法と重要性を周知した。	・保護者が仕上げ磨きをしている子どもは微減した。 ・健診事業だけではなく、子どもの集まる事業での周知啓発等を検討する。 ・引き続き健診時、仕上げ磨きを行っていない保護者に対しては歯科専門職による支援を行う。	△	【評価】 むし歯のない子どもが増加したことについては評価できるが、保護者が仕上げ磨きをしている子どもは微減してしまった。評価項目としてはほぼ全体的に現状維持と考える。 【課題】 乳幼児期の歯科においては、保護者の意識や行動が非常に大切である。健診は保護者への動機づけとして最も重要な機会であるため、歯科専門職を中心に、専門職による支援・周知の充実を図る。また、令和6年度からの健診システム導入に伴い、健診時の歯科相談の啓発方法について手法の検討が必要である。	△	・大変かとは思いますが、リーフレットを新しくしたことの努力は感じる。 ・妊婦歯科健診から継続。乳幼児のむし歯は親の責任、健診時にいかに親に対して子どもに責任があるかを提示できるか ・保護者に対する情報発信、アドバイスが必要。 ・課題を達するために必要な具体的方法を検討し、実施していただきたい。 ・現状維持だが、もともと高い現状値であると思う。 ・数値的にはほぼ横ばいで、改善も後退もない。 ・先日、NHKでスウェーデン式歯磨きというのをやっていた。スウェーデンは世界的にも虫歯が少ない国だそうである。「夕食後、家族全員で揃って洗面所で歯磨きをする。フッ素入りの歯磨き粉で歯を磨き、そのままうがいをする。」というものであった。これが出来たらと、出演していた歯科医が話をしていたのが印象的であった。
			3歳児健康診査で、むし歯のない子ども	92.1%	93.9%	増やす	むし歯のない子どもを増やすため、引き続きかかりつけ歯科医を持つことの重要性を周知する。また、健診でむし歯があり、歯科医院に通院していない場合は、歯科専門職や必要に応じ保健師と連携し支援を行う。	95%	・健診でむし歯があり、歯科医院に通院していない場合は、歯科専門職や必要に応じ保健師と連携し支援を行った。 ・保育園に食育だよりを通じて仕上げ磨きの重要性について周知啓発を実施した。	・むし歯のない子どもが増加した。 ・引き続き、歯科医院に通院していない場合は、歯科専門職や必要に応じ保健師と連携し支援を行う。				
			3歳児健康診査で、甘い飲み物をほぼ毎日飲んでいる子ども	21%	22%	減らす	・1歳6か月児歯科健診時に甘い飲み物を毎日飲んでいる子どもに対し、歯科専門職が個別指導を行いむし歯リスクについて伝えることで、行動変容を促す。 ・健診事業だけではなく、子どもの集まる事業での周知啓発等検討する。	22%	1歳6か月児健診で配布しているリーフレットをリニューアルし、甘い飲み物によるむし歯のリスクを含めた生活習慣に関するリーフレットを配布し、周知を行った。	・甘い飲み物をほぼ毎日飲んでいる子どもの割合は変わらなかった。 ・引き続き1歳6か月児健診で生活習慣にむし歯リスクのある子どもに対し歯科専門職から個別指導を行い、むし歯リスクについて伝えることで、行動変容を促す。				
			3歳児健康診査で、かかりつけ歯科医を持っている子ども	35.4%	36.2%	増やす	・引き続き乳幼児健診や乳幼児歯科相談事業で周知啓発を行い、ぽけっとなどび等活用した周知啓発も行う。 ・地域に外向き子どもの集まる広場等での健康教育の中で、かかりつけ歯科医の定着について周知を行う。	36%	・継続して乳幼児健診や乳幼児歯科相談事業等でかかりつけ歯科医に関する周知啓発を図った。 ・保育園に食育だよりを通じてかかりつけ歯科医に関する周知啓発を実施した。	・引き続き乳幼児健診事業等で周知啓発を行う。 ・ホームページだけではなく、ぽけっとなどび等の活用や他事業とからめた周知啓発についても検討する。				

大目標
3

歯とお口の健康づくりを推進します

・評価の基準:○ 現状値より増えた △ 現状維持 × 現状値より減った

								主管課評価				評価推進委員会					
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和4年度実績値	最終目標値	令和5年度実施計画【最終目標値達成のために実施する事業(業務内容)】	令和5年度実績	実施内容【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント			
3	【学齢期・成人期】 子どもの歯肉炎予防・成人の歯周病予防に努めます	健康課	中学1年生でむし歯のない子ども	77.5%	85%	増やす	学校と学校歯科医の連携をより密にとっていく。歯の大切さを伝えるために引き続き学校歯科医による講話や歯の磨き方の指導等を行う。養護教諭をはじめとした関係機関との連携をより強化する。	79.5%	永久歯が生えてくる小学校低学年から、毎日の歯みがき習慣を身に付けることが重要と考え、家庭での実践を支援するため、歯みがきカレンダーを作成し、市内小学校に配布した。	歯の健康を維持していくための正しい知識を小学校時代に身に付けられるように、養護教諭や学校歯科医との連携を強化し、歯科専門職としての支援を行う。	△	【評価】 「お口の健康診査の受診率」以外の項目においては昨年より下がったものの引き続き現状値より上回ってはいると捉え総合的には現状維持と考える。 【課題】 受診率向上のための効果的な手法を調査・研究する必要がある。早い段階からの適切な口腔衛生管理をより効果的に推進するため、より一層の周知啓発活動及び受診勧奨の充実を図り、歯科受診率の向上を目指す。	△	・引き続き活動をお願いしたい。 ・小学校、中学校での歯科教育は養護教諭、学校歯科医がいかに熱心にできるか、そしてむし歯のできてしまった子にいかに早く歯科医受診に繋げることができるかであるとする。お口の健康診査で、対象者が、すでに定期的に歯科にかかっていると「受ける必要無し」と勝手に判断している傾向がある。そこが受診率の伸びを妨げているのではないかと。 ・学校と学校歯科医で連携して取り組んでほしい ・課題を達するために必要な具体的方法を検討し、実施していただきたい。お口の健康診査の受診率が低下している。コロナが終わり、受診率としては上がりそうだが、上がらなかった要因は検証してほしい。 ・若干の上下はあるものの、ほぼ横ばい。 ・対象母集団が変わっているのに不思議なくらい数値に変動がない。 ・母集団が変わっても状況が変わらないということは、そうなる要因が何かあるということだろうと思う。 ・教育・指導による意識の変化も重要であるが、それ以外のアプローチを考える必要があると思う。			
			中学1年生で歯肉に異常のない子ども	78.4%	89.7%	増やす	・関係課や養護教諭との連携を密にとり、保健だよりやひのっこ教育等を利用し情報発信を行う。 ・情報発信の中でセルフケアの方法やかかりつけ歯科医での健診の重要性について周知し歯肉炎予防を図る。	86.3%	・養護教諭との連携のもと、学校保健だよりに歯科衛生士が歯肉炎予防や良く噛むこと等の子どもの歯の健康を守るための内容を掲載した。 ・ひのっこ教育(教育広報)に歯肉炎予防の大切さについての記事を掲載した。	中学1年生での歯肉炎は増加傾向にある。学齢期に児童、生徒が自分でお口の健康を守るという意識が持てるように、引き続き養護教諭等と連携を図り支援を行う。							
			お口の健康診査の受診率	8.9%	6.9%	増やす	電話での受診勧奨や地域に出向いての啓発活動を行い、受診勧奨のポスターの掲示個所を増やし、受診率向上を目指して取り組む。	6.2%	・LINEやデジタルサイネージを活用した周知啓発を行った。 ・市内薬局やミニバスにポスターを掲示した。	受診率は低下している。受診しない理由を明確にするため、アンケート調査等の実施を検討し、事業に反映させる。							
			お口の健康診査受診者で、かかりつけ歯科医を持つ方	59.8%	67%	増やす	引き続きお口の健康診査時の健康教育やホームページ、広報を通じて、かかりつけ歯科医を持つことのメリットを周知する。地域に出向いて、対面での健康教育の機会をより増やす。	66.6%	お口の健康診査時の健康教育やホームページ、広報でかかりつけ歯科医を持つことのメリットを周知した。	・率は横ばいで推移している。 ・お口の健康診査の受診をきっかけに、かかりつけ歯科医を持つ方が増すような取り組みを、関係機関と共に継続する。							
4	【高齢期】 口腔機能の維持向上を推進します	健康課	お口の健康診査の受診率	中目標3にて評価										○	【評価】 後期高齢者歯科健診について、関係機関と連携し、舌圧測定、オーラルディアドコキネシスを用いた口腔機能健診を実施したことにより、受診率が大幅に増加したことやかかりつけ歯科医については目標を達成することができたことは大いに評価できる。 【課題】 令和5年度より後期高齢者歯科健診事業の目的を、歯周病予防から口腔機能低下予防へと変更した。継続して5年間毎年受診することで、口腔機能への意識を強化し、口腔機能の維持・向上、全身疾患及びフレイルの予防につなげられるよう、健診の充実及び周知啓発に努める。	○	・口腔機能健診開始による評価は大きいです。引き続きお願いしたい。 ・後期高齢者歯科健診の受診率は確かに大幅に向上したが、80歳以上の方の口腔機能検査はどうするのか。 ・高齢者だけでなく、かかりつけ歯科医の重要性を発信し続ける事が大切である。 ・後期高齢者健診に新しい取組を入れ、受診率が向上したことは評価する。 ・かかりつけの歯科医を持つ比率が大幅に上がったが、母集団の年齢に変更があったとすると直接的に比率を持って評価することは出来ないと考えた。 ・虫歯・入れ歯の治療だけでなく、口腔の健康状態の相談窓口となる何かが必要ではないか。 ・口腔機能の診断と改善指導が60歳代から受けやすくとすると、誤嚥や咀嚼不全等、色々な不健康状態を招く要因を早期に発見・対策でき、市民の健康寿命の長寿化に繋がるのではないかとと思う。
			後期高齢者歯科健診受診率	9.6%	8.2%	増やす	・高齢者の口腔機能の維持・向上のため、口腔機能健診を開始する。 ・受診率向上のため、広報やSNS等を活用した周知啓発を行う。 ・高齢者の通いの場で健康教育を行う際に、歯科健診の重要性や事業周知を行い受診率向上を図る。	11.3%	・関係機関と連携し、舌圧測定、オーラルディアドコキネシス(舌の発音回数を調査)を用いた口腔機能健診を開始した。 ・LINEやデジタルサイネージを活用した周知啓発を行った。 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の対象者にチラシを作成して受診を呼び掛けた。	・初年度の口腔機能健診だったが、受診率が大幅に向上した。 ・5年間、毎年受診することで自身の健口状況の推移を把握できるので、継続して受診していただけるように周知・啓発に取り組む。							
			お口の健康診査受診者で、かかりつけ歯科医を持つ方	次指標に移行													
			後期高齢者歯科健康診査受診者で、かかりつけ歯科医を持つ方	44.5%	49.3%	増やす	令和5年度に後期高齢者歯科健診をリニューアルする中で、受診者に対しかかりつけ歯科医の重要性について健康教育を行う。75～79歳の5年間で重点的に歯科専門職が教育することで、かかりつけ歯科医定着を図る。	87.1%	受診者に歯科保健指導を行い、自身の口腔機能の状態を把握してもらい、お口の機能を維持することの大切さを理解してもらった。	・口腔機能健診開始に伴い、75～79歳に対象者を変更したため、かかりつけ歯科医を持つ方が多い結果となった。 ・歯科医院で舌圧測定を行い、口腔機能維持の大切さを丁寧に説明することにより、かかりつけ歯科医の定着を促していく。							